

2019年8月3日

本日の米海軍横須賀基地へのオスプレイの飛来、展示に対するコメント

原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会共同代表

弁護士 呉 東 正 彦

本日朝、オスプレイCV-22が、横田基地から、米海軍横須賀基地に飛来し、基地開放イベントで展示された。

オスプレイはこれまでに、沖縄やオーストラリアなどで多数の墜落事故を起こし、その安全性が疑問視され、日本各地で、反対や懸念の声が出ている。

また2013年12月には、三浦市の埋め立て地に、米海軍のヘリが墜落する事故も発生している。

本日の飛来、展示は、友好行事の名のもとに、このオスプレイの横須賀基地の利用、運用について、既成事実を作ろうとするもので、大変問題のあるものと言わざるをえず、既成事実化させてはならないものとする。

米海軍と日本政府に対しては、このようななし崩し的な、オスプレイの運用を中止するよう、また横須賀市、周辺自治体、神奈川県に対しては、国に中止、懸念の声を挙げるよう強く求めるものである。